

第一類第七号

第二回國會 厚生委員會議錄第九号

(四九一)

昭和二十三年六月十五日(火曜日)

午後一時四十分開議

出席委員

委員長 山崎 岩男君

理事 有田 二郎君 理事 中嶋 勝一君

理事 田中 松月君 理事 山崎 道子君

理事 武田 キヨ君 理事 徳田 球一君

井上 知治君 村上 清治君

師岡 榮一君 小野 孝君

最上 英子君 野本 品吉君

松本 眞一君 齋藤 晃君

榊原 亨君

出席政府委員

厚生事務官 久下 勝次君

委員外の出席者

専門調査員 川井 章知君

六月十四日委員降旗徳弥君辭任につ

き、その補欠として周東英雄君が議長

の指名で委員に選任された。

六月十一日

厚生年金保険法等の一部を改正する

法律案(内閣提出)(第一三二号)

同月十二日

國民健康保險法の一部を改正する法

律案(内閣提出)(第一三〇号)

同月同日

恩給増額に関する請願(河合義一君

紹介)(第一三三三三三号)

大都市における庶民住宅に関する請

願(門司亮君紹介)(第一三三三三三号)

社会福祉事業費國庫補助増額の請願

(池谷信一君外十一名紹介)(第一三

二八号)

藥事法の一部を改正する請願(田中

松月君紹介)(第一三四五号)

療術師法制定の請願(榊原亨君紹介)

(第一三七三三三三号)

同(野本品吉君紹介)(第一三七四号)

社会事業法改正に関する請願(田中

松月君紹介)(第一三八一三三三号)

社会事業共同募金法制定に関する請

願(田中松月君紹介)(第一三八二二二

号)の審査を本委員会に付託された。

本日の會議に付した事件

藥事法案(内閣提出)(第八八号)

○山崎委員長 たいまより會議を開

きます。

藥事法案、麻薬取締法案及び大麻取

締法案を一括議題に供し質疑を継続し

たします。質疑は通告順に許します。

師岡委員。

○師岡委員 同僚の委員によりまし

で、かなり廣汎にわたつた御質問が行

われておりますので、私はなるべく重

複を避けて主要な点だけをお尋ねした

と思ひます。

第一は医療分業の問題でございます

が、この問題は医師及び薬剤師の業權

問題として考えておるのではなく、し

て、私どもはあくまでも両者の機能

を、それらの分野において活用いたし

まして、医療内容の向上をはかること

に重点が置かるべきものであつて、医療

制度の改善の基本的課題であると考え

ますが、これに對しまして政府はどうか

いうふうなお考えをおもちになつてお

るか、伺いたないのであります。さらに

政府は果たに医療分業制度を実施

することのできな理由の一つといた

しまして、藥局の普及せざることをあ

げておられます。現在のごとき医療業

業制度のもとにおきましては、藥局が

農山漁村にまで普及することは、百年

河清をまつにひとしいと思ひます。藥

局は現在の情勢のもとにおきまして

は、ますます都市に集中いたしまし

て、遂には藥局の経営難に陥り、あた

ら修得いたしました藥学が、用ゐるに

途なきに至らんことあるをおそれるの

であります。そのことはただに藥劑師

のためのみならず、國家全体といたし

ましてはまた大なる欠損であること

を免れることはできないと思ひます。

分業制度の実施の日をますます延長す

る結果ともなります一面、藥劑師をし

て國民の保健衛生に寄與貢獻せしめ得

ざることとなるのであります。よつて

政府は藥局の偏在を防ぎ、これが普及

をはかるべく格段の配慮が必要と存じ

ますが、はたして政府はその用意あり

や否やを伺いたないのであります。

さらに本委員会におきまし

て、可及的速やかに医療分業制度とし

て法制化することを要請するといふよ

うな意味の附帯決議を付したといひ

ますれば、政府はこれに對して御同意

なさる意思がありや否やをまず第一点

としてお伺ひいたしたのであります。

○久下政府委員 御質問の第一につき

ましては、師岡委員の御意見と全然同

様に考えておるのであります。あく

までもこの問題は医療分業を徹底すべ

きかどうかということは、そのときど

きの社會の實情に照らしまして、そのす

べが最も國民の福祉になるかどうか

かという観点から問題を解決したいと

思つておるのであります。

第二次の藥局普及についての用意が

あるかというお話でございます。この

問題は非常にむづかしい問題であると

考えるのであります。実は現行法にお

きましては、藥局開設を許可制度にい

ましておられます一つの理由といたしま

して、藥局の適正なる普及をはかる

といふようなことが考えられておつたの

であります。開設の許可制度というよ

うことによりましては、他の例でも同

様であります。そののみをもつてさ

うような目的を達することは不可能に近

いことであるといふことで、今回の法

案では開設の許可を取止めていたので

あります。お話の通りに藥局の普及が

行われますことが、医療制度の根本を解

決する途であることは、私どももそう

感じて居るのであります。ただ問題は

藥局の普及が十分でない一番根本の理

由は、藥劑師の数の不足といふことで

ございます。現在三万七千人ほどの藥

劑師があるのみでありまして、この程

度の数をもちましては、すべての病院

に必要な藥劑師が配置され、さらにま

た独立の藥局が全国的に整備されると

いふようなことは、きわめて困難な事

情であると思つておられます。さうい

ふ意味合いにおきまして、まずこの問

題の根本は、一つは藥劑師がもう少し

多数であることを期待いたさなければ

ならないと考へて居る次第でありま

す。それ以外におきましては、別段具

体的な施策を講ずることも、たたいま

のところは考へておらないのでありま

すけれども、十分藥劑師会その他の方

面とも御連絡を申し上げまして、藥局

が國內に普及いたしますように、少く

とも現在の範圍内においても適正な普

及が行われるような手段も十分研究も

し、努力もしてみたいと存じて居る次

第であります。

それから第三に附帯決議についての

お尋ねでございます。決議の御趣旨

にも上ると思つてございしますが、私

どもの考へていたしましては、医療分

業を徹底し、いわゆる強制分業を実施

するといふような時期は、ごく近い將

來では今申しました事由も加わりまし

て、わが國の實情からはむづかしいで

あろうと考へて居るのであります。し

かしながら再三申し上げておりますよ

うに、根本的には、藥劑師制度とい

ものが存在をしております以上、また

これを國家が制度として公認をいたし

ております以上は、医療の強制分業の

方針に副つてすべての施策を講じてみ

ようとしておられます。

○師岡委員 それでは無医村、無藥局

村の医療制度を政府はどういうように

して、拡充しようとして居るか、また

これらの現実に對しまして、いかに對

処して居るかといふことをお伺ひいた

したいと思います。殊にこの現実は山村僻

地といふ地形的な不利の條件のため

に、医師とか、藥劑師とかいふ人々の

要する社會的經濟的條件に合致しな

いということが、そのおもな原因であ
ると思ふのでありますが、政府はこれ
に對しまして、速やかに有効適切な施
策を講ずる意思ありや否やをお伺い
したいと思ひます。

○久下政府委員、お尋ねの点は無医村
と無業局村と、二つにわけてお答えを
申し上げた方がよろしいかと思ひます。
無医村につきましては政府におきまし
ても、数年前にすでに具体的な施策を
とつたことがあつたのでありますが、
その施策のみでは十分に目的を達し得
ない。しかもいろいろな予算の関係等
から、龍頭蛇尾に終つておりますこと
は、私としてはなほ遺憾に思つてい
るのであります。今回近く本國會におきま
して御審議をいただきますと思つて、準
備を進めております医療法という法律
案におきましては、さうな点の解決の
ために若干の考慮を拂つておるつもり
でございます。すなわち医療機関にお
きましては、薬局と同様に、一般的に
はいわゆる自由な開業医制度を基本と
いたしております関係上、かような制
度のみをもちましては、わが國の事情
として、いわゆる無医村がまだ千六、
七百存在してありますし、医療機関が
ありません、はなはだ不十分な医療

機関、いわゆるりつばな設備をもちま
した病院の制度は、ほとんど農村方面
には普及しておらぬ状態でありませ
う。今日の進歩した医学をあまねく國民一
般に及ぼすところまでまいつておらな
いと思ふのであります。これらの問
題を解決いたしますために、若干の國
庫補助をいたしまして、絶対無医村、
相對無医村両方を含めました廣い意味
の無医村に對しまして、医療機関を普
及いたしますやうな考え方を今度の医

療法案に盛つておるのであります。無
業局村につきましては、ただいまのと
ころさうな具体策を講ずるまでに考
え方が熟しておらないのであります。け
れども、これは一面におきまして、今
申し上げたやうな病院制度が普及いた
しませんれば、当然病院の調劑所がで
き、藥劑師がそこへ勤務いたしますし
て、本來の技能を活かしていただける部
面もあると思ひまして根本的な解決とは
思つておりませんけれども、さうな
面において相當の解決を期待して
次第であります。

○師岡委員、次に処方せん発行の義務
を醫師に負わせる問題につきまして
は、醫師と藥劑師との間に相當意見の
相違があるやうであります。私は公正
な第三者の立場から、また治療を受け
る者の立場から意見を申し述べてみた
いと思ひます。医療は國民生活におけ
る各人の職域の一分野でありまして、
決して醫師及び藥劑師の私有物ではな
いと思ひます。治療對象が患
者であり、國民大衆でありますから、從
つて治療内容の公開はきわめて當然で
あります。今日処方せん発行の義務
を云々するやうな問題が発生し
ておることは、きわめて不可解な極
のことと存じます。これに對して醫師側
の主張を要約いたしますれば、素人に
調劑内容を知らしてもむだであるとい
うことが第一点。また第二点といたし
まして、藥の内容を教えると、かえつ
て精神的治療を妨げるおそれがある
というやうなことを言つておるのであ
ります。これは明らかに現代科学を
無視した言ひ分でありまして、私とい
へども病人の精神的な面が重要である
ことは承知しておりますが、患者が自

分自身どんな病氣にかかつていて、ど
んな治療を受け、公衆衛生上どうしな
ければならないかというやうなことを
知つておくことは、絶対に必要な事柄
であると思ひます。従つて私は調劑
内容をだれにもわかるやうに、日本文
字で表示することにいたしますれば、
結局治療の内容が明確になりまして、
醫師の責任が明らかになると思ひので
あります。これに對しまして政府はど
ういうやうなお考えをもつておられま
すか、御答弁を承りたいと思ひま
す。

論は処方せんが多数發行され得るやう
なことを期待した規定がなされてい
るのであります。私どももいたしまして
は、この処方せん発行の問題は、やはり
医療制度の根本にふれることでありま
すので、十分慎重に考へておるつもり
であります。しかし非常にまれな場合
ではあります。患者に処方せんの
内容を知らせることによつて、その疾
病の内容を知らしめることが治療上適
当でないということがあることは、た
だいま申しました医療制度調査会の審
議でも言われまして、さうな趣旨の
規定がはいつているのであります。具
体的に申しますと、從來は診療所のな
いときは、処方せんを發行しなければ
ならないというやうな、ごく軽い書き
方になつておりましたのを、これを但書
にもつてまいりました。但し診療上特
に支障のある場合はこの限りにあら
ず」というやうなことで、たゞいま医
師法案は進んでおります。すなわち
「特に」ということが加わりました点、
それから但書にもつていつたというや
うなことによつて、診療上支障のある
ことはきわめて例がなすいものである
というやうなことが、大体において認
定せられたやうに存するものでありま
す。政府といたしましてはこの医療制
度調査会の御審議の結果を尊重し、こ
れに同意をいたしました。ただいま案
を進めておる次第であります。

○師岡委員、次に治療對策についてお
伺ひしたいと思ひます。治療對策
につきましては、積極的な面と、消極
的な面との二通りあると思ひますが、
第一に大衆の健康保持のため、政府は
どんな施策を講じておいでになるか。
第二に、發生することあるべき疾病等

○久下政府委員、たゞいまのお尋ねの
問題は、これも近く御審議をいただく
予定になつております醫師法、齒科医
師法に直接関係する事柄でございます。
ので、またその際いろいろ御質疑が
あることと存じますが、たゞいまの案
の程度におきまして進行してあります
考え方を、御質問がございましたら
ら、お答えをしたいと思います。処方
せんの發行の問題につきましては、い
わゆる医療の任意分業の問題として、
この藥事法案及び醫師法案、齒科医
師法案を審議していただきました医療制
度調査会におきまして、非常な論議
の焦点となつた問題であります。
結論として到達しておりますことは
は、大綱においては御趣旨のやうな結
論に相なつておるものと承知してお
るのであります。すなわち処方せんの發
行が從來あまり實際問題として行われ
ておらなかつたというやうな点が指摘
をされまして、処方せんの發行をもつ
と大いにやる必要があるというやうな
意味合で、從來の処方せん發行に關す
る規定を形式の上において大分變えた
規定をいたしているのであります。結

に對して、政府はいかに処方せんとし
ているか。第三は、現に疾病に苦しむ
人たちに對して、徹底的な治療の途が
開けていられるかどうか。私は今日の狀態
は、この重大なる問題が醫師と患者と
いう局限せられた人たちにだけ押しつ
けられて、社会全体として解決すべき
國家的方途が講じられていないと思
ふのであります。従つて現代医学の恩
恵に浴してゐるものは、一部少数の金
持ちか、あるいはやみ成金に限られま
して、一般まじめな勤勞大衆は、實質
的にはこの恩恵から隔離されてい
ると思ひます。政府は新賃金
ベースの設定にあたりまして、医療費が
どのくらいの内容として計上せられて
いるかというところにつきまして、お答
えを願ひたいと思ひます。

○久下政府委員、非常に根本的なお尋
ねでございますが、ごく簡単に概略
をお答え申し上げます。すなわち
医療對策、治療の對策といつた
て積極面のお話でございますが、こ
れにつきましては御承知通り、全國
的に保健所の整備をいたすことに相
なつておりますので、かような線に沿
ひまして、いわゆる積極的な健康増進
というやうなことが、今後は從來と違
つて一段と促進せられるものと思
ひます。第二段の發生せんと
する疾病の予防についても、やはり
これらの機関が十分に活躍するものと
考へておりますけれども、特に結核
その他のいわゆる國民病と言われるよ
うなものにつきましては、専門の部局
を設けておいて、その方面において努力
をいたしておいて、殊に急性傳染
病のごときに至りましては、すでに御
承知のごとくに、非常に患者の發生が

○師岡委員、次に治療對策についてお
伺ひしたいと思ひます。治療對策
につきましては、積極的な面と、消極
的な面との二通りあると思ひますが、
第一に大衆の健康保持のため、政府は
どんな施策を講じておいでになるか。
第二に、發生することあるべき疾病等

激減をしておるといふような結果も最近現われているのであります。これらの面におきましては、さうよゝな一連の施策が、相当に近き将来に実を結ぶものと期待をいたしておる次第であります。次に疾病になりました者の治療対策でございますが、先ほど申し上げました病院、診療所の整備復旧というよゝなことに力をつけて、あまねく國民に医療の恩恵に浴せしめるよゝうにしたいというのが私どもの考えでございます。またこれが実現を急速に期したいと思つておる次第であります。かよゝうなことは主として施設面と申しますか、そゝういふ方面からの施策でございますけれども、特に治療問題として大事なことば、医療費負担の軽減をはかるという経済的の面であると思つておられます。これにつきましても、現在御承知のよゝうに、一面において生活保護法の制度があり、さらに社会保険制度等が行われておりまして、ある程度の成績をあげておると思つておりますが、必ずしもこれが十分に徹底してない向きもあると考へるのであります。さよゝうな意味合におきまして、すでに御承知だと思ひますが、社会補償制度というよゝうな根本的な対策も現に研究調査をされておりますよゝうな次第でありまして、まともりますれば、またいづれ國會の方でも十分御審議をいたさうと思ひます。さよゝうな各方面からお尋ねの点につきましても、十分な努力をいたしておるつもりであります。

は別といたしまして、中小の病院におきましては、実際上行われていないと考へます。たとへば看護婦であるとか、あるいは女中であるとかいふよゝうな人たちが、処方せんによつて調剤しているということが実情であると思つておられます。また考へを交へまして、医師みずから調剤するといふことは、その医家自體の経済的自立の面から言つて、かなり不可能に近いのではなからうかと思はれるのであります。従いまして実情に即するよゝうに條文に修正を加へる。たとへば「みずから調剤し」とありまますのを、みずからの責任において調剤し、と改めるよゝうなことにつきまして、もしわれ／＼がこゝういふよゝうな修正をしようとする場合におきまして、政府は御同意なさるかどうかといふ点について伺ひたいと思ひます。

○久下政府委員 お尋ねの点につきましては、私どもは、みずからの責任において、こゝういふよゝうな表現のし方をとることについてはいかがであるかといふ考へをもつておるのであります。申すまでもなく、疾病に対する投薬をするために調剤をするといふことは、専門の知識技能をもつております者が、直接手をかけることが必要でございます。もしも間違ひが起りましたらば、單に責任を負うだけでは事柄が解決しないと思つておられます。さよゝうな意味合におきまして、あくまでも私には調剤の本質的なことは医師みずからやるといふよゝうになすべきであると思つておるののであります。

○師岡委員 次に藥事委員會の構成及び運営に關しましてお尋ねいたしたいと思ひます。前に徳田委員から御意見をありましたが、私は大体においてそれとまつたく同感であります。ただ委員會がきつめて重要であるといふ性質に鑑みまして、左の諸点をお尋ねいたしたいと思ひます。

第一点は委員會は常置機関であると思へます。事務局設置にどんな構想をおもちになつておるかといふことを伺ひたいと思つておられます。

第二点は委員の任命は厚生大臣が行うことになつておられますが、推薦母体があつて、その推薦を基礎として任命するかどうかといふ点について伺ひたいと思ひます。

第三点は、第八條の「藥事、医事若しくは獸医事に従事する」云々と規定されておられますが、藥劑師及び醫師もしくは獸醫師でない者で、たとへば藥事労働者、あるいは労働組合の代表者、藥事労働者といふよゝうな人も藥事従事者として委員の職につくことができると解釈して差支ないかどうかといふ点につきましても政府の御意見を拜聴したいと思ひます。

○久下政府委員 藥事委員會に關するお尋ねの第一点であります事務局の問題でございますが、これは委員會に事務局をつけますことによりまして、獨立した行政官廳になるというよゝうな一般の行政組織法との關係もございまして、この委員會はお話の通り、常任委員も設けまして常置的なものと考へて運用したいと思つておられますが、その事務局としての仕事は、現在の藥務關係の事務をつかさどつておられます。厚生省の職員がこれに當るといふよゝうなことで運営をしていきたいと思つておられます。

それから第二の推薦母体についてのお尋ねでございますが、昨日厚生大臣からお答え申し上げました通り、私どもとしては法令にその規定はございせんども、たとへば藥劑師、醫師、齒科醫師會、國民健康保險組合、かよゝうな各種の團體の代表として選ばれた場合には、實際問題としてかよゝうな團體から推薦のあるものについて考慮するといふよゝうにいたしたいと思つておられます。

それから第三に、藥業労働者を加へるかといふお話でございますが、私どもとしては加へる意向でございます。

○師岡委員 次に第十三條の藥劑師國家試験に關して伺ひたいと思ひます。試験の執行にあたりまして、結局受験者の良識を信頼いたしました。いゝわゆる試験地獄の弊を矯正する意味において、科目試験制度を採用することが妥當と考へますが、政府の御意見を拜聴したいと思ひます。

○久下政府委員 これは議論のわかれる点であるかと存するのであります。が、科目試験制度にするといふことが、いかどうか、むしろ私どもとしては先般他の委員の方からお話がございまして、法律から各科目を書いてあることを除いたらどうかといふよゝうな御意見がございまして、それに異存がないといふことを申し上げておるくらいでございます。まして、藥學教育のために、つまり國家試験のために藥學教育が影響され、曲げられるといふよゝうなことを防ぎますためには、むしろさよゝうな科目制度にいたしませんで、總括的に藥劑師として、ほんとうに世の中に立つていくために必要な知識技能について試験を行うといふよゝうな考へ方で運用をいたしまして、言いかえすれば、

藥學校を出ておれば、十分まじめにその勉強をへしておれば、十分に合格し得るよゝうな意味において試験を行うといふよゝうにしたい方が、むしろ適當ではないかと考へておるのであります。

○師岡委員 次に第二十條第二項に、藥局開設者に対して、毎年登録の更新を命ずる規定があるのございまして、一休店舗の開設者に毎年更新の手続をふませることは、他に類例がないと考へるのであります。従つてその煩雜を避けましたために、たとへば第一項を削除して、代りに都道府縣知事は必要と認むるときは隨時藥局の点検を行うといふよゝうな意味で、いゝわゆる行政的な一つの処理方法として、これを残していただくよゝうな点で、これを御修正なさるよゝうな方法をお考へになつておるかどうかについて伺ひたいと思ひます。

○久下政府委員 お尋ねの点につきましては、私どもはかよゝうに考へておるのであります。今回の藥事法におきましては、現行法の法律と違ひまして、藥局の開設を届出、登録するといふよゝうな制度に改めたのであります。一定の規格に合つておられますれば、登録はどん／＼受入れられるよゝうにしたいと思つておるのであります。これをそのまま放置して、ただ積極的にこちらから見まわるといふだけの制度にいたしますことは、恐すれば藥局開設者が登録のときに要求されておりました要件を、常に満たしているかどうかといふことがなほなほ心もとない結果にならうと思つておられます。それを十分に遺憾なくやりますためには、都道府縣は非常に龐大な人員を擁して、ひとり藥局、医薬品の製造業その他が各方面

にわたつて遵守いたさなければならぬことになりすので、そののみをもつて目的を達することは、はなはだ困難な結果になりはしないかと思つてあります。その意味におきまして、もちろんさうな点も今回の法律の中にも規定をしておりますように、薬事監視員というような制度を設けられることにもなつておりますけれども、一方におきまして薬局の開設者が、常に薬局として要求されております要件を満たしておるかどうか。この反省をして自主的に薬局を常に所要の要件を満たしていただきますようにしていただくために、やはり毎年々の登録をしていただくということが必要でありまして、自主的にやつていただくことも、そのひま／＼に薬事監視員が見せていただくというような両面から目的を達したいと思つて、かような制度を設けたのであります。

とらないうで、不良薬を運賃せしめないという取締り趣旨と、幾多の不便を大衆に轉嫁せしめないようにすることの矛盾を調和するために、すでに薬品中で大衆化されつつあるものは、その販賣方法を薬事委員会に一任されてはどうかと思つてあります。

○松本(眞)委員 薬事法改正の御趣旨をいたしまして、戦時中の官治統制的な立法を際して、斯界の自治的な日本経済の再建に役立つように取計らつたというふうになつておりますが、その趣旨に矛盾しているように思われる点があるのではないかと。なおまた半頭一歩前進をしていただきたいと思つております。すなわち改正法案の第四十一條、第四十四條によりまして、問題の各種特効薬の流行に便乗する不良薬品の取締りを厳重にした理由はよく了解できるのであります。大衆の医薬知識の向上と相まつて別力をもつようになつてきておりますところのスルファミン剤等の販賣取締りについて、かように注文列記制を

それから次に薬劑師の身分確立についてであります。大衆、殊にインフレにあえぎ、栄養失調に泣く勤勞大衆家族の保健を担当する薬劑師の責任は、この時局に際していよいよ重大さを加えてきたのであります。この法案を全体的に見ますと、その責任の重大さを取締りの嚴重さに備置せしめただけのように思われて、その責任の重大さとそれに伴う地位に対して、医師、齒科医師と同じように、大衆をして尊敬と信頼感を得せしめるような、すなわち薬劑師をして一つの矜持をもたしめ、その職責の遂行に至誠と熱情を傾け盡さすべきところの精神的な立法趣旨がにじみ出ていないように思われるのであります。政府委員の御説明によりますと、当分の間は別な薬劑師法を制定する意思がない、このままで通すつもりであるというふうに伺えたのであります。ところが、そうすると本法案の制定によつて將來薬劑師法制定の前提をなす明文一項を挿入すべきではないかと思われるのであります。政府はこの法案で足れりとしておられるかどうか。それから現行法第二條では、薬劑師の重責を了解しておるのに、改正法案では単に医薬品の取扱ひを規整するだけであるのみか、かえつて空氣試験とか、飲食物試験とかの薬事衛生を省いているのはどういふわけでありませうか。それを伺いたいと思つてあります。

○久下政府委員 御質問の第一点につきましては、具体的な御趣旨が十分了解できなかったかと思つて、四十一條あたりスルファミン剤に対してのお尋ねがあつたようでありまして、その点について申し上げてみたいと思つてあります。私どもとしてはこの法案の制定の根本の趣旨は、たゞいま松本委員のお述べの通りに考へておるのであります。ただそれはあくまでも國民の保健衛生の向上という大きな命題に副うように考へておるつもりでございます。さういふ意味合から申しますと、ある程度この法案によつて從來より不便であるというところがないとも申されないのであります。今御指摘のスルファミン剤についても、さういふ結果になると思つてあります。この規定を設けました趣旨は、これをただ個人個人の一般の人たちの自由なる使用に任せますと、いゆる箇に對する抵抗力を増したり、その他の副作用も考えられる場合もあり得るので、さういふ特殊なものにつきましては、御趣旨の通りに薬事委員会の意見を聴きまして、厚生大臣が指定をし、直接一般の人に医師の処方せんまたは指示なしに賣らせないようにした、というふうな考へ方でございます。

○松本(眞)委員 第二條第七号であります。そのうちの「魅力を増し」という点はどういふ魅力を増すのであるか、お伺いいたします。

○久下政府委員 この「魅力を増し」という言葉を入れましたのは、たとえば皮膚、いわゆる下着等に香水などをかけることを申しておるわけでありませう。決してこれはほかの言葉の美化すとか、清潔にするとか、容貌をかえ

きまして、重要な地位と責任とをもち、また現にその責任を果しつつありますことについては、十分これを認識しておるつもりでありますし、將來ともますますその方面に對します御協力をお願いするつもりでおるのであります。御指摘のこの法案の中にその趣旨が現れていないというのは、どういふ点をお指しなされたお話でありますか、氣持におきましては御質疑の点と何ら交つた氣持をもつておりませぬことを申し上げたいと思つております。

○松本(眞)委員 次に法文の解釈でございます。第六十五條の規定によりまして、本年三月卒業した薬学生の成年者は、即得権によつてそのまま無試験で免許証がいただけると思つて、未成年者はどうなるのでございませうか。

○久下政府委員 現行法によりまして、實質的には免許を受ける資格がありませんけれども、ひとり未成年などのゆゑをもつて免許を受けられない人の取扱ひにつきましては、実は当初はそれほど多数の該当者がなくとも考へ、何とか事前に処理ができたと思つて、特別な規定を設けなかつたのであ

るとか、いふ言葉には該当いたしません。が、さういふことが使われまので、加えたのであります。

○松本(眞)委員 第八條の薬事委員会構成のことにつきましてお尋ねしたのであります。構成の按分比例が薬劑師界から二分の一とあるとか、その他どういふふうな按分比例でやるのか、今腹案があればお伺いしたいのであります。

○久下政府委員 ただいまのところ、まだそこまで具体的な方針をきめておらないのであります。ただ第十條あたりで御覽をいただきますとおわかりのように、薬劑師國家試験小委員会は最少十七名の委員をもつて構成したいと思つておりますが、この小委員会のときに至つては、ほとんど薬学の人だけにはいると思つてあります。その他はむしろん性格が少し違ひますので、さういふ点を具体的に考慮いたしまして、各方面の御意向が十分公平にお聴きできますようにいたしたいと思つておられます。

○松本(眞)委員 次に法文の解釈でございます。第六十五條の規定によりまして、本年三月卒業した薬学生の成年者は、即得権によつてそのまま無試験で免許証がいただけると思つて、未成年者はどうなるのでございませうか。

○久下政府委員 現行法によりまして、實質的には免許を受ける資格がありませんけれども、ひとり未成年などのゆゑをもつて免許を受けられない人の取扱ひにつきましては、実は当初はそれほど多数の該当者がなくとも考へ、何とか事前に処理ができたと思つて、特別な規定を設けなかつたのであ

りますけれども、この点につきましては、先日有田委員からの御質疑もございまして、国会の法規におきまして、その問題につきまして御修正をされるということでありましたれば、私どももいたしましては、賛成をするというような気持であります。さような取計らいにしていたらば好都合かと思っております。

○山崎委員長 松本君にちよつと御相談申し上げます。速記の関係で一應これで散会して、あとは懇談会にしたいと思ひますが、いかがですか。

○松本(眞)委員 それで結構です。

○山崎委員長 それでは本日はこれにて散会いたします。

午後二時二十三分散会

昭和二十三年九月二日印刷

昭和二十三年九月三日発行

衆議院事務局

印刷者 印刷局